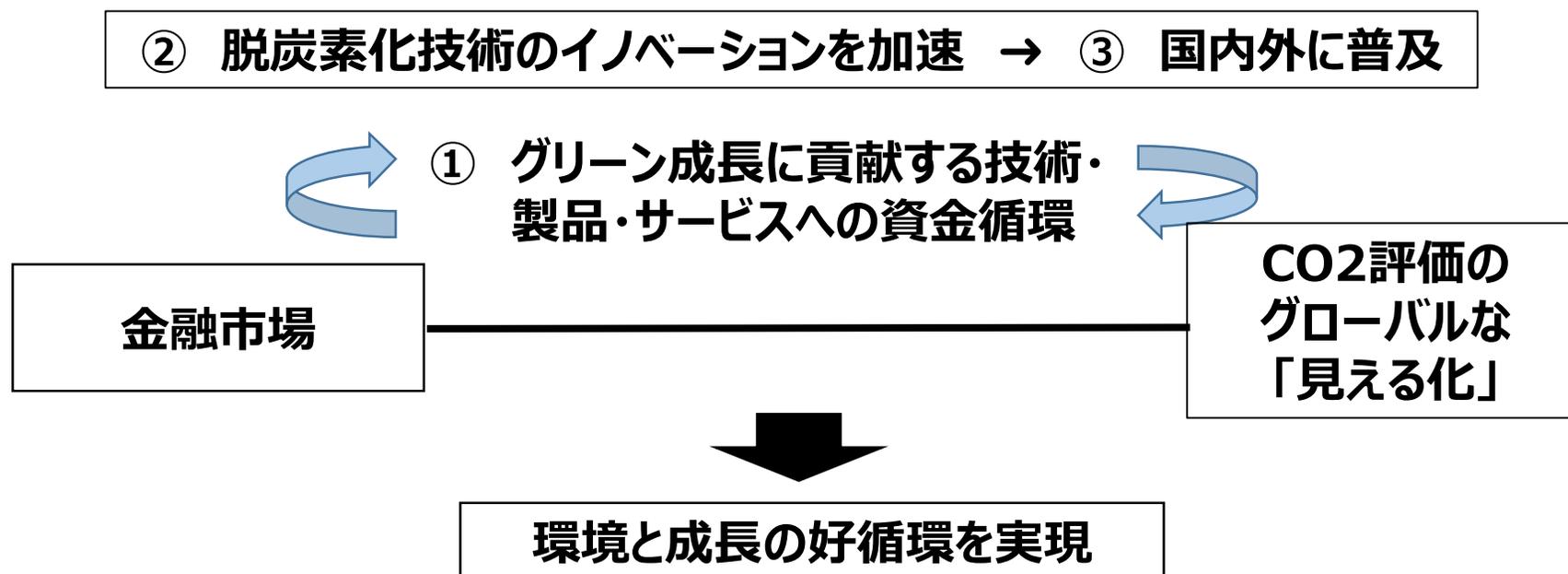


- ◆ 環境はコストからビジネスチャンスへと変化の流れ。世界の投資家は既に動いており、投資急増。
エネルギー転換・脱炭素化への挑戦を経済成長につなげる。
- ◆ 実現に向け、
 - ① グリーン成長に貢献する技術・製品・サービスに資金が回る仕組みの構築
 - ② 脱炭素化技術のあらゆる可能性を追求し、イノベーションを加速
 - ③ イノベーションの成果の国内外への普及、日本企業の国際展開・国際貢献
に挑戦。

<グリーン成長を実現する好循環>



①エネルギー転換・脱炭素化に向けた取組の「見える化」による資金循環促進

優れた技術や製品を有する日本企業の取組を「見える化」、
世界に発信することで、ESG評価を重視する投資家からの投資を呼び込み

◆ 気候変動に対する取組の発信強化による、投資家に対する日本企業のプレゼンス向上

✓ 日本企業からの情報発信を促進するため、国際的に議論が進んでいるTCFDフレームワーク（気候変動関連の任意の企業情報開示の枠組み）に沿って、日本企業の気候変動対策における貢献・強みを「見える化」。

積極的に発信していく方法論を検討。

- － 現状、気候変動情報を開示している日本の企業数は米国に次ぐ2位（283社）
その6割が高評価となるA～B評価、英国・米国と同水準（国際NGOの調査）
- － Climate Action 100+：世界の279の投資家（資産運用規模約30兆ドル）が気候変動への貢献を働きかけ
日本企業10社を含む世界の大排出企業100社が対象

✓ 方法論を企業向けガイダンスとしてとりまとめ、企業情報開示の国際的議論に対しても、積極的に提案。

◆ エネルギー転換の加速に向けた、エネルギー企業と金融機関の対話の促進

✓ 国・企業から、国内外の金融資本に対し、能動的な提案を行うことで資金供給を確保し、官民一体でのエネルギー転換を加速。

②脱炭素化技術のイノベーションを加速 → ③国内外に普及

世界のエネルギー転換・脱炭素化を促すため、革新的技術の開発を促進。
科学的レビューメカニズムにより技術熟度・コスト・リスクの検証を進め、技術間競争を加速。

- ◆ 未来型エネルギー技術で再生可能エネルギーを最大活用（宇宙太陽光・超臨界地熱・全面太陽光ビル・大容量蓄電池等）
- ◆ 水素・CCS等による化石燃料のグリーン化で、世界をリード
（世界初の褐炭×CCS水素サプライチェーン構築（日豪）、水素発電での実証技術開発（神戸）など水素技術で世界をリード）
- ◆ 次世代原子力の開発（安全性・経済性・機動性に優れた炉の追求：小型モジュール炉（SMR）、高速炉・高温ガス炉 等）
- ◆ 分散化・デジタル化した未来型社会を創り、地域を活性化
- ◆ 脱炭素化モノづくり技術（グローバルトップの製造技術の更なる革新：水素還元製鉄、人工光合成）

優れた脱炭素化技術を有する日本企業による、民主導の国境を越えた活動を促進。
更なる経済成長、世界全体の排出削減に貢献。

- ◆ グローバル水素アライアンス
 - ✓ 豪州等と連携し、水素サプライチェーン構築。化石燃料の脱炭素化を実証。
 - ✓ 日本が主導し、水素閣僚会議を開催（先進国、資源国・中国 それぞれをターゲットにした戦略の展開）
- ◆ 低炭素製品・サービスのグローバル展開
 - ✓ ベトナムで、家電への省エネラベル制度を導入(2013年)。導入後、日本製の家庭用エアコンの販売台数は倍増。
 - ✓ 「製品・サービスのグローバルバリューチェーンを通じたCO2削減貢献量」を算定し、見える化するガイドラインを活用、低炭素製品等が評価され、マーケットベースでグローバルに展開。